

## ●JCOMM マネジメント賞

### 持続可能な MM 教育から始める交通まちづくりの縁

川西市

牧の台小学校区コミュニティ推進協議会

兵庫県阪神北県民局

能勢電鉄（株）

阪急バス（株）

川西市の MM は、平成 14 年度に先駆的に取組み、平成 18 年度より小学校教員との密なコミュニケーションを通じて、地域特性を反映した MM 教育を継続的に実施してきた。これらの実績を踏まえて「第 5 次川西市総合計画」「川西市都市計画マスタープラン」に MM の推進を明記することで計画的に MM が実施できる環境を整えてきた。そして、人口減少を迎える中、公共交通のあるべき姿を提示し実現するため平成 26 年度に「川西市公共交通基本計画（かわにし交通ピースプラン）」を策定し、MM を重要な政策の柱として改めて位置づけた。それだけではなく、これまでの住民、行政、交通事業者そして学識の協働により、地域密着型の住民主体 MM の取組み経験を他地域にも展開していくために、「地域公共交通実施計画」制度を設けて、順次拡大しつつある。

MM 教育を推進して行く中、児童の保護者が核となり、保護者を中心に交通まちづくりの縁が広がり展開した結果、減り続けていた地域のバス利用者は年々増加し、平成 27 年度には、平成 24 年度と比べ、約 1.45 倍の年間 30 万人をこえる実績を残した。

一方、MM 教育の授業を受けた小学生へのアンケート結果では、算数の割合の単元において 4 割程度が理解しにくい中、地域の調べ学習を行いグラフ化等にまとめることで、1 割に減少した。また、保護者に対するアンケートでは、児童による MM 教育の発表会、地域のスーパー及び郵便局等で成果品を掲示したことにより、バスは地域の財産と気づき、バスに乗ったことが無い保護者の 50%がバスに乗った。

そして、MM 教育を実施し 4～6 年後の追跡アンケート調査では、MM 教育の受講者は「まちづくりや公共交通の取組を手伝いたい」と言った項目で、未受講の生徒と比べると 1 割程度高く（有意差あり）、MM 教育の地域愛着形成に効果が確認できた。

### －JCOMM 実行委員会から－

平成 14 年度から現在まで継続的に改善を経ながら取り組まれており、都市計画マスタープランにおいて MM 教育の推進が明記されていること、また、「かわにし交通ピースプラン」といった上位関連計画をふまえて、教育 MM の取り組みや「地域公共交通協議会」など独自の推進体制など、長年にわたる地域主体の活動の展開がなされ、近年のバス利用者数も増加しており、効果も顕在化しています。大都市ではないことを逆手に取り、きめ細やかなマネジメントを展開してきたことが、今後の他地域への展開可能性も大きく、JCOMM マネジメント賞として選定されました。